



Feste Romane - Project

「ローマの祭り」を  
演奏しよう！  
プロジェクト。

# 演奏会



2006.5.13(土)

国立オリンピック記念青少年総合センター・大ホール

# Program Notes

## GOD SPEED! 作曲:S.メリロ

“GOD SPEED!”は、“成功を祈る”(又は旅の安全を祈る)という意味で、インディアナ州のミュンシーセントラル高校バンドの委託作品です。メリロは普段から“成功を祈る”という言葉を手紙の終わりに必ず書いたそうで、この曲についてもそうした気軽な気持ちでタイトルをつけたところ、このバンドの指導者から大変喜ばれたとのことです。

曲は明快な速い、遅い、速いの三部形式で、木管とハープ、打楽器により輝かしく開始され、金管が引き継いで、ホルンと低音楽器が壮大な映画音楽風な主題を提示します。ゆっくりした中間部は、ホルンやトロンボーンが厚いハーモニーで豊かな主題を奏し、ハープ伴奏によるイングリッシュホルンの長いソロも聴かれます。短いブリッジを経て最初のテーマに戻り、華やかに終わります。

## 森の贈り物 作曲:酒井格

日本の南西部、鹿児島県に屋久島という深い森に覆われた島があります。1993年にユネスコの世界遺産にも登録されたこの森には、樹齢7200年と言われる縄文杉をはじめ樹齢1000年を超える巨木が数多くあり、その佇まいは神々しく神秘的ですらあります。古代から島に住む人たちに大きな恵みをもたらしてきたこの森も、数十年前には木材需要の高まりにより数多くの樹木が伐採され、森が失われる危険に見舞われたこともあります。しかし、森の大切さを訴える人たちの真摯な願いが叶い、現在では緑豊かな森が多くの人たちによって守られています。

この曲は、目をつぶり耳を澄ませると聞こえる鳥の鳴き声、水のせせらぎ、森の精の歌声、森の長老の語り、森の生き物たちの行進などの美しい森の景色が広がる様子が描かれています。

## With Heart and Voice 作曲:D.R.ギリングハム

この曲はミネソタ州アップルヴァレー高校の創立25周年を記念して作曲された曲です。曲のテーマとなっている賛美歌は、「Come, Christmas, Join to Sing」という古いスペインの賛美歌で、アップルヴァレー高校の校歌としても歌われています。

曲は、静かに、そして不安な響きとともに始められます。テーマの断片がバスーンやトロンボーン等の弱奏によって奏でられ、やがて厚みを増して音量も緊張感も最高潮に達します。再び静けさを取り戻し、フルートが新しい主題を奏します。この第2テーマはギリングハムのオリジナルであり、校歌の主題との対位を成しています。新しい学校で学生達が得る使命感を歌ったこのテーマは、ユーフォニウム、ホルンへと引き継がれ、やがてファンファーレへと発展していきます。

やがてテンポを速めた音楽は、不協和音や激しいリズムを駆使した展開部へと流れ込み、劇的シーン、挑戦とその勝利、不安感など、学校生活で得られる様々な経験が、様々な音楽スタイルで描かれていきます。目まぐるしい変拍子に乗せて主題の断片を組み立て、その緊張感を解く間もないまま終結部まで一気に駆け抜けていきます。

## 交響詩「ローマの祭り」 作曲:O.レスピーギ 編曲:森田一浩

交響詩「ローマの祭り」は古代から現代に至る4つの祭の様子を描いています。

第1楽章「チルチェンセス」は古代の祭り。ローマの円形大劇場での暴君ネロの祭りの日、鉄の扉が開いてライオンが放たれ、殉教者たちの歌と猛獣のほえる声が空に混じり合います。興奮した民衆の騒ぎが高まり、殉教者の歌も力を増して、最後は騒ぎの中に消えていきます。群衆のわきたつような興奮と、それをかりたてる力強い金管のファンファーレが曲を盛り上げます。

第2楽章「50年祭」は中世の祭り。これは50年ごとにキリスト教で行われる大赦の祭で、ここではローマを訪れる巡礼の様子が描かれています。

第3楽章「10月祭」は近世の祭り。ぶどうの収穫を祝う様子を描いています。狩りの様子を表すホルンの旋律や、後半のマンドリン(今回はマリンバ)のセレナードは優しくロマンチックです。

第4楽章「主顯祭」は現代の祭り。ナヴォナ広場での主顯祭の前夜、特徴のあるトランペットのリズムが騒ぎをかき立てます。田舎風の歌、サルタレロの舞曲、手廻しオルガン、物売りの声、これらによる底抜けの喧騒。そしてその中から人々の“我らはローマ人だ、さあ道をあけろ”という声が聞こえています。曲は狂おしい木管のリズムから始まり、続いて農民の歌やサルタレロに踊り狂う人々、見せ物小屋の手廻しオルガンの音、物売りの声、酔っ払いのだみ声などが見事に描写されています。そして民謡風の旋律が高らかに奏されてクライマックスを描き、力強く曲を閉じます。

# Program

## 〈第一部〉

GOD SPEED! 作曲:S.メリロ

森の贈り物 作曲:酒井 格

With Heart and Voice 作曲:D.R.ギリングハム

## 〈第二部〉

交響詩「ローマの祭り」 作曲:O.レスピーギ 編曲:森田一浩

1. Circenses チルチェンセス
2. Il Giubileo 50年祭
3. L'Ottobrata 10月祭
4. La Befana 主顯祭

# Greeting

「ローマの祭り」を演奏しよう!プロジェクト演奏会にご来場いただき、誠にありがとうございます。本プロジェクトは今日、この目的ために集まったメンバーで構成された、企画吹奏楽団です。そして皆が「ローマの祭り」というある一曲を演奏したい!という気持ちを持ったメンバーで構成されているのが、他の吹奏楽團に類を見ない、特徴的な部分です。

このプロジェクトは2004年1月にインターネット上の呼びかけより始まりました。掲示板でのやり取りを重ね、自由奔放に皆の「ローマの祭り」を演奏したい!という熱い思いと様々な可能性を模索して、企画が進められました。2005年3月。大久保のジョナサンで集まつたこのときのメンバーで具体的なキックオフをしました。月に1回の練習、1年後の本番という具体的な目標を掲げて。

本日、そうやって集まつたメンバーは約50名。決してうまくはないけれども、「ローマの祭り」を演奏したい!という気持ちは皆同じです。そんな私たちの演奏を最後までお楽しみいただけましたら、幸いです。

どうぞ、今夜一夜限りの「祭り」をお楽しみください。

プロデューサー 脇 村 隆

Takashi Wakimura

指揮 鈴木 隆宗 Takamune Suzuki

1970年東京生まれ。大阪芸術大学通信教育部音楽学科在学中。高校からチューバをはじめ、卒業後渡米し、サウスイーストミズーリ州立大学音楽学科でチューバ及び合奏法をロバート・ギフォード博士に学ぶ。帰国後1993年から約7年間、都立高校OB吹奏楽団の常任指揮者として定期演奏会などを指揮するなど、本格的に吹奏楽指導活動を始める。

WASBEの奨学生を受け、2004年サウスイーストミズーリ州立大学、2005年セントラルミズーリ州立大学の各吹奏楽指揮者シンポジウムに指揮者として参加し、アラン・マクマレー博士(コロラド大学)、ロバート・ギフォード博士に指導を受ける。現在も講習会やセミナーなどに積極的に参加し研鑽を積んでいる。

「鳥肌が立ち、興奮し、自然と涙が溢れる音楽」創りを目指し、「音楽は愛され愛するもの」「音楽は死ぬまで勉強」との思いを胸に、指揮・指導に励んでいる。

吹奏楽の指揮・指導活動としては、2005年度エーデルワイス・プラス・オーケストラの客演指揮者を務めた他、現在ざんかシティウインズ音楽監督・常任指揮者等を務めている。また、管弦楽の指揮・指導活動としてはムジカ・ビアツツ(室内管弦楽団)副指揮者兼トレーナーを務め、カメリア室内管弦楽団指揮者に就任する予定。

日本吹奏楽指導者协会会员、WASBE会员(World Association for Symphonic Bands and Ensembles)、NBA国际会员(National Band Association)

